

## 秋田県支部

### フィルムコミッションと地域振興に関する調査研究

フィルムコミッション（FC）とは、映画・TV等のロケ撮影を地域に誘致することにより飲食、宿泊等の消費需要増加や観光客増加などの効果を地域にもたらすことを目的とする公的な組織である。日本では2000年以降FC設立がはじまり、現在80以上のFCが活動している。事務局は自治体や商工会議所等に置かれる例が多いが、民間のFCも存在する。

全国のFCに対するアンケート調査によると、ロケ誘致の効果に関しては観光客増加等の間接効果を最も期待したが、実際にはロケによる消費需要増加という直接効果が最も多い。制作サイドがロケ地を決定する要素として「景観」を重視していると考えているFCが多く、制作サイドに対するアピールポイントとしては「FCの協力体制」とする回答が最も多い。FCに対する警察等の協力体制は「活動に支障ないレベル」と答えたFCが多かった。

映像制作サイドに対するアンケート調査では、ロケ地を決定する要素としては「作品イメージに適合したロケ場所の存在」をすべての回答者があげ、次いで「住民の協力」「FCの協力体制」という回答が多かった。FCがアピールすべき要素としては、「FCの協力体制」「住民の協力」が最も多い。秋田におけるロケの可能性では、「計画はないが関心はある」という回答が最も多いが、その「構想」や「具体的計画」があるという回答もあった。

FCサイドと制作サイドのアンケートを比較すると、FCを有効に機能させるための方法として、制作者等のデータベースを構築、ロケ適地に関する情報の整備・発信、ロケーションサポート企業との連携、地域の協力体制整備などがあげられる。

秋田県内のFCへの取り組みとして、角館FC、「釣りバカ日誌15」秋田ロケ支援委員会、秋田FC研究会の活動がある。角館FCは映画「たそがれ清兵衛」の撮影に武家屋敷が使われたこと等をきっかけに設立された。事務局は町の商工観光課に設置され、町内あげでの支援が行われ、観光客増加に貢献している。「釣りバカ日誌15」秋田ロケ支援委員会は、県観光連盟や5市町村など35団体で構成され、同映画の誘致に成功、ロケを支援した。映画は入場者100万人を超えるヒットとなり、地域のイメージアップ等の効果が期待される。秋田FC研究会は民間団体だが、県内の映画祭や角館FCなどと連携しながら、FCに関する啓発、映画ロケの支援を行い、県内のFC推進を先導してきた。

FC活用による地域振興のためには、FCを地域ブランド確立のプロモーション手段と考え、映像発信により地域の魅力を広くPRし、観光誘客だけでなく企業立地や県産品販売に結びつける戦略が必要である。そのためには、県内全域をカバーするFCを設立し、県内の映画祭など関係者相互のネットワークを活かした活動を行うことが重要である。